

22-24

2022年4月25日

さらなる移動の安全性、快適性の向上へ

鉄道駅バリアフリー料金制度を活用し円滑な移動の実現に取り組みます ～2025年度までのホームドア全線整備をはじめ整備を着実に推進～

東京地下鉄株式会社(本社:東京都台東区 社長:山村 明義)では、全てのお客様により安全・安心で快適なサービスを提供していくため、これまでも国及び地方自治体のご協力をいただきながら、ホームドア、エレベーター等の各種バリアフリー設備整備を積極的に実施し、持続的に設備の維持・更新を行ってまいりました。

このたび、第二次交通政策基本計画(2021年5月8日閣議決定)で示された「誰もがより快適で容易に移動できる、生活に必要不可欠な交通維持・確保」の基本方針のもと、バリアフリー設備整備にあたっては国により2021年12月に創設された鉄道駅バリアフリー料金制度を活用することといたしました。お客様の薄く広い負担を得て、年齢や障がいの有無に関わらず全てのお客様が安全・安心で快適にご利用できる環境を整えるため、2025年度までのホームドア全線整備をはじめとした、各種バリアフリー設備の整備を着実に推進してまいります。

また、設備整備以外に従来から取り組んでまいりました、駅社員のサービス介助士資格取得、積極的なお声がけやサポート、東京メトロ公式HPや「東京メトロmy!アプリ」によるバリアフリー設備や移動ルートについての情報提供等も引き続き実施していくことで、お客様の円滑な移動を実現し、安全・安心で快適な鉄道サービスの提供に取り組んでまいります。

1 バリアフリー設備の整備に関するこれまでの取り組み

2021年度末時点の主なバリアフリー設備の整備状況

(1)ホームドア

180駅中150駅で整備が完了し、整備率は83.3%となっています。

銀座線、丸ノ内線、千代田線、有楽町線、南北線、副都心線：全駅整備完了

日比谷線、東西線、半蔵門線：整備中

(2)エレベーター1ルート

180駅中177駅で整備が完了し、整備率は98.3%となっています。

(3)ホームと車両床面の段差・隙間縮小に資する設備

銀座線、丸ノ内線、千代田線の全駅及び東京2020大会会場最寄り駅で整備が完了しており、現在、日比谷線で整備を進めています。全体の整備率は43.8%となっています。

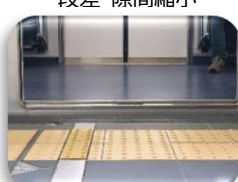
(4)バリアフリースイート(多機能トイレ)

全駅で整備が完了しています。

(5)車両のフリースペース

全車両へのフリースペースの設置を進めており、1547両で整備が完了し、整備率は56.5%となっています。

ホームドア

エレベーター
1ルートホームと車両床面の
段差・隙間縮小

バリアフリースイート



車両のフリースペース



2 バリアフリー設備の整備に関する今後の取り組み

ホームドアについては、2025年度までの全線整備に向け、日比谷線、東西線、半蔵門線において整備を進めてまいります。注)大規模改良工事実施中の一部番線を除きます。

段差解消設備のホームと車両床面の段差・隙間縮小については、日比谷線において整備を進めてまいります。

バリアフリースイレ(多機能トイレ)については、引き続きエレベーター複数ルート上の追加整備を進めてまいります。

車両のフリースペースについても、整備を着実に推進してまいります。

なお、世界的な半導体不足の影響により、整備計画が変更となる場合があります。

		整備予定 ※1		
		2021~2025年度	2026~2029年度	
ホームドア		51駅107番線(39駅83番線) 100%	1駅3番線(1駅3番線) ※2	
段差解消設備	エレベーター ※3	1ルート	- (-) 98.3%	3駅4基 (-) 100%
		複数ルート	7駅 8基 (2駅4基) 38.9%	3駅3基 (-) 40.6%
		自社乗換ルート	2駅 2基 (-) 71.4%	- (-) 71.4%
		他社乗換ルート	1駅 1基 (-) 57.1%	1駅1基 (1駅1基) 58.9%
		合計	10駅11基 (2駅4基)	7駅8基 (1駅1基)
ホームと車両床面の段差・隙間縮小		20駅40番線(20駅40番線) 55%	- (-)	
バリアフリースイレ(多機能トイレ)		4駅4箇所(4駅4箇所)	- (-)	
車両のフリースペース	新型車両	264両 (-)	- (-)	
	リニューアル	100両 (100両)	162両 (162両)	

※1 ()内は、鉄道駅バリアフリー料金制度を活用、%の値は全体の累計整備率を示す。

※2 2021年度~2025年度で整備予定の1駅において、一部番線の整備を予定。

※3 2021年度~2025年度の1駅1基で自社乗換ルートと他社乗換ルートを兼用。
2026年度~2029年度の1駅1基で複数ルートと他社乗換ルートを兼用。

また、バリアフリー設備については、お客様が安全・安心で快適にご利用できるよう、設備の更新及び日常の点検を行ってまいります。

なお、2029年度までに、ホームドア136駅273番線、エスカレーター70駅161基の設備更新を予定しています。

3 鉄道駅バリアフリー料金制度の活用

バリアフリー設備の整備にあたっては、国により2021年12月に創設された鉄道駅バリアフリー料金制度を活用することとし、本日、国土交通省関東運輸局に、鉄道駅バリアフリー料金制度を活用した料金設定及び整備等計画の届出を行いました。

運賃に加算して収受した鉄道駅バリアフリー料金は、バリアフリー設備の整備費等に充当いたします。

<届出の概要>

東京メトロ全路線を対象に、以下に記載の鉄道駅バリアフリー料金を、現在の大人旅客運賃に
加算します。通学定期旅客運賃については、鉄道駅バリアフリー料金はいただきません。

また、小児については、鉄道駅バリアフリー料金加算後の大人の半額となります。

鉄道駅バリアフリー料金の設定額(大人)

券種	定期外		定期 ※4			
	ICカード	きっぷ	通勤			通学
	1円単位	10円単位	1か月	3か月	6か月	
設定額	10円	10円	370円	1,050円 または 1,060円	1,990円 または 2,000円	料金なし

※4 現在の定期運賃の平均割引率により設定いたします。

鉄道駅バリアフリー料金を加算した運賃に関する詳細は、後日改めてお知らせいたします。

なお、最新の整備等計画や進捗状況等については東京メトロホームページのバリアフリーページ
(<https://www.tokyometro.jp/safety/barrierfree/index.html>)でお知らせしてまい
ります。

4 収受開始予定日

2023年3月頃を予定

5 お客様のお問い合わせ先

(1)東京メトロお客様センター

TEL 0120-104-106(9:00~17:00/年中無休)

(2)東京メトロホームページ

<https://www.tokyometro.jp/index.html>

(参考1)ソフト面の取り組み

- 全駅社員のサービス介助士資格の取得率100%を維持し、今後も継続して新規採用や異動に伴う対象者への資格取得を推進してまいります。
- 総合研修訓練センター等を活用し、全駅社員を対象に、正しい介助方法の習得と事故の未然防止を目的としたバリアフリー研修を実施しています。
- 「声かけ・サポート」運動を推進しています。(2021年度は83社局7団体と連携して実施)
- 視覚障がい者の方に安心して駅をご利用いただくことを目的に、視覚障がい者ナビゲーションシステム「shikAI(シカイ)」の導入を推進しています。
- 認定NPO法人「ことばの道案内」と連携し、当社の駅の主要出入口からホームまでの案内ルートをテキスト情報として作成し、同法人のウェブサイトで公開しています。
- 車いす等をご利用されるお客様へのご案内を目的としたアプリ(社員用)を導入し、お客様を極力お待たせしないスムーズなご案内やデジタル技術を活用した、より正確な情報連携によるご案内等、さらなるお客様サービスの向上を図っています。

- 盲学校等と連携し、鉄道施設体験学習会やイベントを実施しています。
- 社員向けに手話教室を開催しています。

バリアフリー研修の様子

お客様ご案内用アプリ（社員向け）の活用

鉄道施設体験学習会

社員向け手話教室



(参考2) Webサービスやアプリを活用したバリアフリー設備や移動ルートのご案内

- スムーズメトロ(<https://www.smoothmetro.jp>)

車いす等をご利用のお客様をはじめお身体の不自由なお客様やご高齢のお客様の駅構内における円滑な移動を目的として、駅構内のバリアフリー移動ルート、ホームと車両床面の段差・隙間縮小及びバリアフリートイレ(多機能トイレ)等に関する情報を分かりやすくお届けするWebサービス「スムーズメトロ」を提供しています。

スムーズメトロ 画面イメージ



- 東京メトロmy!アプリ

2021年3月から東京都交通局と連携し、両社局の公式アプリ(東京メトロmy!アプリ及び都営交通アプリ)において、ホームから地上出口までといった、駅構内のお客様の移動ルートを平面図や説明文でご案内する「駅構内ナビゲーション」機能を提供しています。

また、2022年3月から東京メトロmy!アプリで出発地点から到着地点のルートを検索する際、東京メトロ及び都営地下鉄の駅において、エレベーターのみを利用するルートをご案内する機能を追加しました。

エレベーターを利用した駅構内での移動

my! 駅構内ナビゲーション

<エレベーター限定ボタン>

駅構内ナビゲーション画面で「エレベーター限定ボタン」を押すと階段やエスカレーターを使わないルートをご案内します。

エレベーターを利用した駅から駅への移動

my! エレベーターを利用するルート検索

<虎ノ門駅から東京駅までご利用になる場合>

階段・エスカレーターを利用するルートのためご案内しません

赤坂見附駅

→:エレベーターを利用するルート

階段・エスカレーターを避け、エレベーターのみを利用するルートをご案内します。

以上

バリアフリー整備・徴収計画

鉄軌道事業者名	東京地下鉄株式会社
---------	-----------

整備方針	
全期間	・ホームドア全駅整備完了 ・エレベーター乗換ルート及び複数ルート整備、多機能トイレ整備の推進 ・日比谷線各駅のホームと車両の間の段差・隙間の縮小完了等
2021～2025年度	・ホームドア整備の推進 ・エレベーター乗換ルート及び複数ルート整備、多機能トイレ整備の推進 ・日比谷線各駅のホームと車両の間の段差・隙間の縮小完了等
2026～2029年度	・ホームドア整備の推進等 ・エレベーター乗換ルート及び複数ルート整備

料金額				
券種	定期外		定期券	
	普通券 (磁気券)	普通券 (IC)	通勤定期券	通学定期券
設定額 (円)	10	10	(※1)	—
年間徴収額 (百万円)	6,021 (※2)		4,954	—
料金徴収 対象駅	全180駅			
備考	(注) 設定額は税込額 ※1 通勤定期券、全線定期券への設定料金 1か月：370円、3か月：1,050円または1,060円、6か月：1,990円または2,000円 ※2 上記券種のほか、各種回数券、団体乗車券からの徴収額を含む。 鉄道駅バリアフリー料金を加算した運賃に関する詳細は、別途周知する。			

年間徴収額	10,975 百万円
徴収期間	7.5 年間 (2023.3 ~ 2030.9) ※2030年10月以降の継続について検討予定
総徴収額	82,312 百万円
総整備費	82,547 百万円
	2021～2025年度の計画： 51,911 百万円 2026～2029年度の計画： 30,636 百万円 ※2030年度以降の継続について検討予定

バリアフリー整備・徴収計画（計画期間：2021.4～2026.3）

整備内容			
(1) 設置・改良費（附帯費用含む）			
設備名	整備数		整備費
ホームドア	39 駅	83 番線	21,654 百万円
エレベーター	2 駅	4 基	3,032 百万円
段差隙間縮小に資する設備	20 駅	40 番線	332 百万円
バリアフリースイレ	4 駅	4 ヶ所	103 百万円
車両のフリースペース	100 両		93 百万円
備考	・ホームドア： 新設（21駅45番線）、延伸（18駅38番線）		
(2) 更新費（附帯費用含む）			
① 設備更新			
設備名	整備数		整備費
ホームドア	39 駅	76 番線	4,677 百万円
エスカレーター	43 駅	95 基	6,350 百万円
その他	4 駅		413 百万円
備考	・その他：運行情報提供設備（自動旅客案内装置）		
② 車両更新			
路線名	整備数		整備費
半蔵門線	19 編成	190 両	3,015 百万円
ホームドア整備等 との一体性について	半蔵門線ホームドアの早期整備等を実現するため、ホームドアに対応したATO装置等搭載かつ、 車両の床面高さを低くした車両等に更新する。（整備費はホームドア整備・段差解消に資する装置 のみ対象）		
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）			
維持管理費（附帯費用含む）			11,659 百万円
収受システム改修費			126 百万円
その他費用 （駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）			457 百万円
備考	・維持管理費： ホームドア、エレベーター、エスカレーター、運行情報提供設備（自動旅客案内装置）		

※整備数：計画期間内に供用開始する設備の数

※整備費：計画期間内に整備する設備の費用（計画期間内に供用開始しない設備の費用も含む。）

計画期間内の整備費（(1)～(3)の合計）	51,911 百万円
-----------------------	------------

計画期間内の料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数			
ホームドア設置番線数		45	番線
段差解消駅数	一経路確保駅	0	駅
	二経路以上確保駅	2	駅

バリアフリー整備・徴収計画（計画期間：2026.4～2030.3）

整備内容		
(1) 設置・改良費（附帯費用含む）		
設備名	整備数	整備費
ホームドア	1 駅 3 番線	1,774 百万円
エレベーター	1 駅 1 基	566 百万円
車両のフリースペース	162 両	134 百万円
備考		
(2) 更新費（附帯費用含む）		
① 設備更新		
設備名	整備数	整備費
ホームドア	97 駅 197 番線	11,874 百万円
エスカレーター	27 駅 66 基	5,670 百万円
備考		
② 車両更新		
路線名	整備数	整備費
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）		
維持管理費（附帯費用含む）	10,535 百万円	
収受システム改修費	83 百万円（※）	
その他費用 （駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）	－ 百万円（※）	
備考	・維持管理費：ホームドア、エレベーター、エスカレーター、運行情報提供設備（自動旅客案内装置） ※ 2030年度以降の本制度活用の継続について検討予定のため、本制度終了時に必要となる収受システム改修費及びその他費用について、本様式には計上していない。	

※整備数：計画期間内に供用開始する設備の数

※整備費：計画期間内に整備する設備の費用（計画期間内に供用開始しない設備の費用も含む。）

計画期間内の整備費（（1）～（3）の合計）	30,636 百万円
-----------------------	------------

計画期間内の料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数		
ホームドア設置番線数	3	番線
段差解消駅数	一経路確保駅	0 駅
	二経路以上確保駅	1 駅